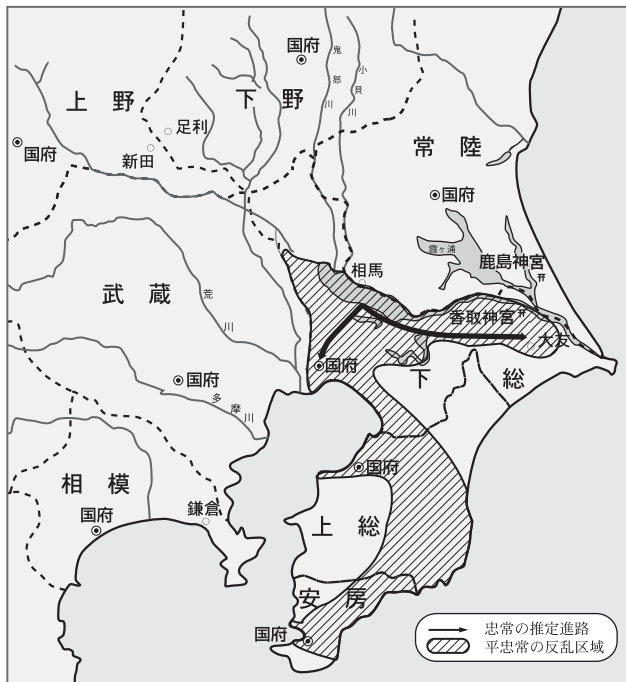


## 平忠常の乱

将門の乱の後、しばらくして房総全体を巻き込む大きな反乱がおこりました。この乱をおこしたのは、高望王の子孫であった平忠常です。忠常は、上総国府や安房国府を攻撃し、朝廷の命令に従いませんでした。朝廷は、次々と役人をつかわして反乱をしずめようしましたが、いずれも失敗しました。このため今度は、源頼信をつかわすと忠常は、頼信に降伏し、反乱はしずまりました。この頼信は、源頼朝の先祖にあたる人です。この反乱を通じて房総の土地は大いに荒れはてましたが忠常の子孫は罪を許され房総半島各地に土着し、千葉氏や上総氏として新たに領地の経営に努め、次第に大きな力をつけるようになります。



平忠常の乱経過図

## ◇ 忠常館 ◇

『千学集抜粹』では、忠常の本拠地を香取郡の大友としており、また、『今昔物語』に「内海に遙かに向かひに有る也。」とあり、内海を濠海とすると両者は符合する。



大友館跡航空写真



大友館跡 香取郡東庄町大友